日本クルーズ&フェリー学会メールニュース

ドイツ港町紀行(1) ハンブルクのホテルからのシップウォッチング

2025.8.25 池田良穂

「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」のエーゲ海クルーズを家族で楽しんだ後、家族は帰国して、筆者はドイツの港町を回ることにしました。40 年ほど前にドイツに留学した時は、1 年 4 ケ月間、西ベルリンに滞在しました。当時は、ドイツは東西に分かれていて、東ドイツの真ん中にポツンとあるベルリンも、市の中が東西に分かれていて、その間には壁がありました。陸地の真ん中で海はなく、休みのたびに訪れていたのが、ドイツ北部のハンブルク、トラフェミュンデ、キールといった港町でした。

ハンブルクからはイギリスへのフェリー、トラフェミュンデからはスウェーデンやフィンランドへのフェリー、キールからはノルウェーへのフェリーがあったので、それらに乗船するのも目的でしたが、それぞれの港町の異なる雰囲気も好きでした。

さてラベンナ港からはクルーズ会社手配のバスでボローニャに移動して家族と一泊した後、筆者は飛行機でミュンヘン経由でハンブルクに到着しました。イタリア、ギリシアは日本同様の湿気をおびた暑さでしたが、ハンブルクに着くとカラッとした暑さに変わり、北海道の夏といった感じでした。朝方は 11 度まで下がり、昼間は日差しはきついものの気温は 25°くらいで、その後は最高気温が 17°程度に下がりました。

ハンブルク

ハンブルクは、北海からエルベ川を 100km ほど遡った所にある河川港です。今でも欧州の河川は、物流のための道の役割を果たしていて、エルベ川を遡って内陸に至る川の道はまさに主要物流ルートです。世界と繋がる海の道と、欧州大陸内部に繋がる川の道の結束点の役割をハンブルク港は古くから担ってきました。かつての西ドイツにはハンブルク、ベルリン、デューイスブルグの 3 つの大学に造船科がありました。このうちデューイスブルグ大学の造船科は、主に河川用の船舶の研究・教育に特化していました。

ベルリン工科大学の造船科に留学中には、何度もハンブルク大学を訪れました。また、ドイツ・ロイド船級(現在はノルウェーの船級 DNV に吸収)の本部もハンブルクにありまし

たので、1990年代以降に政府のIMO関連の審議に携わるようになってから、ベルリンでのIMO関連の会議も時々あって出席しました。現役を退いて10年になりますので、もう仕事でハンブルクを訪れることもありませんが、懐かしい港町ですので、足腰の立つ間に再訪したいと思っていました。

いつもはザンクト・パウリ桟橋の丘の上に建つハーフェン・ハンブルクというホテルが定宿で、ここも眼下に造船所や港が見渡せてシップウォッチングにはよいホテルなのですが、現在の港は、より川下側に拡張していて、大型のクルーズ客船は、このホテルよりも川下側にできた2つのクルーズターミナルを使うことが多くなってきました。また最近の大型のコンテナ船も下流側にできた巨大なターミナルに着きます。

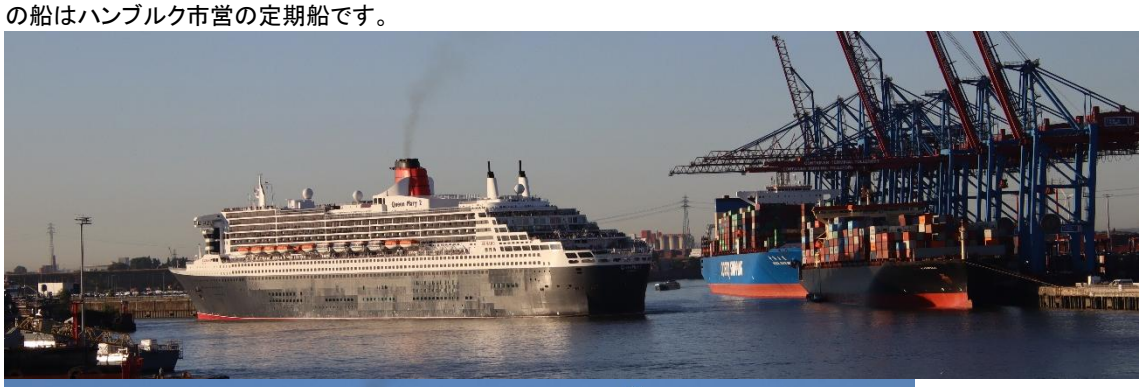
そこでハーフェン・ハンブルグに変わるホテルを探してみました。最近はインターネットで簡単にホテルの検索と予約ができますので、まず、地図上から、ホテルの部屋からシップウォッチングが楽しめそうなホテルを探しました。

そしてザンクト・パウリ桟橋からも徒歩圏ですが、より下流にあるホテルで、アルトナのクルーズターミナルの近くにあるGINN Hotel Hamburgと、さらに下流で反対側の岸にありエアバスの試験飛行場に近いElaya Hotel Humburg を見つけて、最初の2泊は前者に、後半の2泊は後者に泊まることにしました。

まずハンブルクに入ってからすぐに2泊したGinnホテルの窓からは、朝に出港する「クイーメリー2」の姿を間近に見ることができました。この時にハンブルクに滞在したのが日曜の夜～火曜日だったので、ハンブルクで出会ったクルーズ客船は月曜出港の同船だけでした。

さてドイツ、オーストリア、スイスの一部のドイツ語を話す人々を対象としたクルーズを展開するアイーダやＴＵＩのクルーズ客船はハンブルク港を起点港にしていますが、これらの船の行う定点定期クルーズは週末発着となるため、平日だった、最初の2泊3日の間の滞在中には出会うことはありませんでした。

Ginn ホテルの部屋の窓からの光景。正面にコンテナターミナル、画面の左側にカイザー・ウィルヘルム・ハーフェンのクルーズターミナルがあります。アイーダとキュナードは、主に、このターミナルを使っています。手前の黄色の船はハンブルク市営の定期船です。



月曜の朝、港の左奥から「クイーメリー2」がバックで出てきました。

後進でエルベ川まで出てきた「くいーメリー2」は、90° 回頭して川を下っていきました。

かつて大型客船も着いたザンクト・パウリ桟橋です。今は、遊覧船、市営定期船、ヘルゴランド島への高速船のために基地になっています。今年の 9 月には、かつてのように、この桟橋に大型クルーズ客船を並べたクルーズ・フェスティバルが開かれるそうです。背後の見える白い建物が、以前は筆者の定宿となっていた元海員会館だったホテルであるハーフェン・ハンブルクです。

今回宿泊した GINN ホテルです。建物の左側の一部と最上階がホテルです。部屋の窓からだけでなく、最上階のカフェ・レストランからも港の素晴らしい景色が望めます。手前がエルベ川で、遊覧船の上からの撮影です。

一度ハンブルクを離れてトラフェミュンデとキールを回った後、再びハンブルグに戻ってきて Elaya ホテルというホテルに泊まりました。先に泊った Ginn ホテルよりはさらに下流にあり、市街地から少し離れていて交通の便はあまりよくなく、ザンクト・パウリの桟橋からでる市営定期船で 30 分ほどいった桟橋から、さらに徒歩 20 分という距離にありました。しかも、周辺はエアバスの研究所と試験用飛行場と閑静な住宅街があるだけです。ただホテルの部屋はエルベ川に面したおり、窓を開けることもでき、北向きなので、ほぼ一日順光で撮影できて、ハンブルク港に入るほぼすべての船が目の前を通過していきます。ホテルの目の前にも 64 番線の市営船桟橋があり、乗り継げば 62 番線の船でザンクト・パウリの桟橋まで行くこともできます。運賃は片道 660 円と結構高いのが玉に瑕ですが、この定期船に乗ると、アルトナやカイザー・ウィルヘルム・ハーフェンのクルーズターミナルに停泊するクルーズ客船、また巨大なハンブルク・コンテナ・ターミナルに停泊する大小さまざまなコンテナ船も間近に見ることができます。

エルベ川の岸に立つエラヤホテル。リバービューを指定して、できるだけ高層階の部屋にするのがシップウォッチングにはお勧めです。ベランダはありませんが、大きな窓が開閉することができました。

アルトナのクルーズターミナルに停泊する TUI の「マインシフ 4」。船内はドイツ語が公用語となっているドイツ語単言語船で、ドイツの旅行社とロイヤルカリビアン・グループの共同企業体が運航しています。

ホテルに行くまでのハンブルク市営定期船の上から撮影したクルーズ客船「アイーダ・ペルラ」てす。ハンブルク発着の定点定期クルーズに就航しています。アイーダは、カーニバルグループに属しており、本船は三菱の長崎造船所で建造されました。

ホテルの窓からのシップウォッチング

ホテルの窓からエルベ川の上流側を眺めた光景です。左にアルトナのクルーズターミナルに停泊する「マインシフ4」。中央にコンテナターミナルに向かうコンテナ船が見えます。

中国のコスコの超大型コンテナ船が入港してきました。窓の外を巨大な船が通過するのは壮観でした。

上流に向かうフィーダーサービスの小型コンテナ船、ライン川を遡る河川用貨物船、小型遊覧船が並びました。手前にあるのがホテルに隣接した市営フェリーの乗り場です。

夕方、ハンブルク港を出港した「アイーダ・ベルラ」が目の前を通りました。

エルベ川の遊覧船の一隻です。

エルベ川を下る「マインシフ 4」です。

保存された古い砕氷船で、時々、乗客を乗せて航海していました。

日没後の薄明りの中、エバーグリーンの超大型コンテナ船が目前を通って、エルベ川を下っていきました。早朝と夜の日没近くは半逆光になります。

夜の 20 時半、ヘルゴランド島から高速旅客船「ハルンダー・ジェット」が戻ってきました。この翌日乗船したヘルゴランドへの旅については、また紹介します。

朝 6 時過ぎ、カーテンを開けると、目の前を巨大な MSC のコンテナ船「MSC ピクトリン」が通過して、ハンブルク港に入っていきました。朝日があがる早朝は逆光になります。